



## Contents

- 1 学長年頭所感
- 2 HT学部社長講座
- 3 中国語学科中国語コンテストで優勝
- 4 研究最前線 iPS細胞を歯科医療に応用
- 5 就職戦線を乗り切れ!
- 6 震災復興支援活動報告会
- 7 明海スポーツ
- 8 浦安キャンパス第25回明海祭

## 学長年頭所感

# 総力を結集し、充実した教育を

2013年巳年の新年を迎えました。明海大学を支援してくださる多くの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 困難を乗り越えた先に

さて、昨年は未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、悲しみや困苦を乗り越えてきた1年でした。浦安キャンパスも学校法人の強い信念で速やかに復旧が図られ、安心安全な環境の中で教育活動に専念して参りました。また、教職員・学生が共に被災地の復興支援活動に尽力してきましたが、これからも被災された皆さまのお役に立てるよう大学としての努力を続けて参りたいと思います。

社会は政治・経済・医療福祉など、あらゆる面で多くの課題を抱えております。このような時代こそ、本学の建学の精神である「社会性、創造性、合理性」の具現化が必要不可欠であると確信しております。私たちは、社会がどのように変化しても、未来からどのような挑戦を受けても、自らを見失うことなく、大学としての目標に向かって前進していくことが肝要であることは言うまでもありません。

### 「教育の質保証」

大学教育そして大学院教育は「教育の質保証」を強く求められております。大学教育も大学院教育も、それぞれの学位を取得するためのプロセスが重要であることは言うまでもありません。大学の教育に対する3ポリシー(入学者受け入れの方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針)の明確化が図られ、それに沿った社会的評価を受けることとなります。大学の情報開示はますます進んでいくでしょう。私たちは、保護者の期待を受け、そして学生の夢を載せて、船の航海のごとく明海大学を進めて行かなければなりません。教職員は乗組員としての最大の努力が求められております。

このような状況の中で、歯学部においては、新しい歯科界を支えていく優秀な高度専門職としての歯科医師を養成すべく、大学院の改組を行い、高度で優れた臨床の知識と技術を兼ね備えたスーパードクターを目指す「高度口腔臨床科学コース」と、教育者、研究者や優れた研究能力を有する歯科医師等を目指す「口腔生命科学コース」の2つのコースを設置しました。「高度口腔臨床科学コース」においては、歯科界から高い評価



安井利一学長

を得ている我が国唯一の、大学が実施する歯科医師生涯研修事業への選択参加を行い、圧倒的な臨床力を養成するプログラムが完成しました。まさに「生涯教育の明海大学」の名に恥じない教育システムであると思います。また、浦安キャンパスの外国語学部(日本語学科、英米語学科、中国語学科)、経済学部、不動産学部そしてホスピタリティ・ツーリズム学部においては、「明海の人間力」の育成を目指して、人間力形成と専門基礎力の養成、そして夢を実現できる職業選択が可能な、高い就職率を目指します。今年が完成年度になる新しいカリキュラムの充実に一層の努力を払います。【2面へ続く】

【1面から続く】

**教育・研究・社会貢献の充実を**

教育後援会地区懇談会で多くの保護者から、愛情を持った学生への対応に感謝の言葉を受けることができるのも教員一人ひとり、職員一人ひとりの努力によるものです。明海大学として、さらに一人ひとりの学生に愛情を持ち、大切に育てる努力を惜しみません。浦安キャンパスの基礎教育である「学修の基礎」、一層の強化を図る「キャリア形成教育」、教養教育である「人間力形成教育」、そ

して専門基礎科目の履修、さらには正課外の活動としてのボランティア活動やインターンシップ活動、そして本学ならではの海外研修をラーニング・プロセスとして、学生一人ひとりの力をはぐくむ教育に一層の努力を傾注します。さらに、体育会・文化会活動では、優秀な監督・コーチの下、国内外での活躍を目指します。また、研究活動においても、社会資源となる有意な研究を教員個々が倫理性を持って推進していきます。社会貢献に関しては、歯学部付属病院やPDIでの患者満足度の向上を図

り、浦安キャンパスでは浦安市の震災後の発展が全国のモデルとなるような支援貢献をいたします。

今年も、明海大学は教職員が一丸となって社会から見える、社会から評価される大学づくりを志向し、学生や保護者の満足度の高い、そして先端に行く教育プログラムの充実を図ります。

「明海大学だからこそできること」に教職員全員の力を結集するとともに、一人ひとりが素晴らしい年になるよう努力して参ります。

**ホスピタリティ・ツーリズム学部  
社長 講 座**

**帝国ホテルの小林社長らによる特別講義**

ホテルや旅行業、エアライン業界に高い就職実績を誇るホスピタリティ・ツーリズム（以下、HT）学部の授業科目「特別講義Ⅱ（通称：社長講座）」では、HT業界を代表する企業の社長や会長を招き、オムニバス形式で業界の動向や仕事に対する心構えなどを学ぶ。11月、12月の講師は表の通り。今回は、11月8日に行われた(株)帝国ホテル代表取締役社長、小林哲也氏の講義の様子を紹介する。



帝国ホテル小林社長を囲んで

帝国ホテルの小林社長は、122年の歴史と伝統を彩るVIP客の紹介やおもてなしの心について触れた後、良いホテルの存続のためにはハードウェア（設備・機能）、ソフトウェア（サービスの仕組み・システム）、ヒューマンウェア（従業員）の3つの要素がバランスよく保たれていることが大切であることを説明。また、学生へのアドバイスとして、「学生時代から人との縁を大事にしてほしい。自分か

ら積極的にコミュニケーションをとって縁を広げることが自分の成長につながる」と力強く語った。日本を代表するホテルの経営トップの言葉に、学生らはメモを取りながら真剣な表情で聞き入っていた。

今後は1月17日にANAエアポートサービス(株)代表取締役社長の

加藤勝也氏を招いての講義が行われる。

**<11月、12月の講師>**

日程	講師(敬称略)	企業名・役職名
11月8日	小林 哲也	(株)帝国ホテル 代表取締役社長 HT学部客員教授
11月15日	三橋 滋子	(株)TEI 代表取締役会長
12月13日	田川 博己	(株)JTB 代表取締役社長 HT学部客員教授
12月20日	石田 洋子	雲仙旅館 東園 女将

## 中国語学科 中国語コンテストで優勝

第二回「説漢語、通中国」中国語コンテストが12月16日に開催された。本学から永野雄毅さん、伊藤広美さん、土屋亮さん（中国語学科2年）の3人が代表として大学生の部に出場し、見事に団体優勝を成し遂げた。

同コンテスト大学生の部は、日本の大学などで初めて中国語を学んだ人に出場資格が与えられる。審査内容は、団体での課題文朗読、代表1人によるスピーチ、団体での中国クイズなど多岐にわたるが、3人とも堂々たる弁論、朗読を披露し、大舞台でも落ち着いた様子で実力を発揮した。特に個人スピーチを担当した永野さんは、中国語ならではの表現やユーモアを交えた質の高い発表を行い、スピーチの個人表彰でも3位を獲得した。

今回の団体優勝は、本学中国語学科が実践してきたネイティブスピーカーとの会話を重視した語学教育が活きた結果となった。



優勝を喜ぶメンバー（左から永野さん、伊藤さん、土屋さん）

### 大学生の部（団体戦）

優勝・明海大学、第2位・日本大学文理学部、第3位・早稲田大学、他出場大学は神田外語大学、日本大学国際関係学部、青山学院大学、上智大学、成蹊大学、麗澤大学、大東文化大学、東京大学、東京成徳大学（順不同）

## キズナ強化プロジェクト

11月9日、外務省主催「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流（キズナ強化プロジェクト\*）」の一環で、バングラデシュとモルディブから大学生30人が浦安キャンパスを訪れた。

一行は安井利一学長を表敬訪問した後、学内見学や本学の付属機関である別科日本語研修課程の授業を見学。昼食時にはホスピタリティ・ツーリズム学部の日本人学生とともにテーブルを囲み、交流を楽しむ光景が見られた。

バングラデシュから参加した学生からは、「明海大生はとても親切で、積極的に話しかけてくれたのでうれしかった」「貴重な経験ができた」などの感想が寄せられた。

## バングラデシュ・モルディブの大学生が来学



安井学長（中央）とバングラデシュおよびモルディブの大学生ら

\* アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流（キズナ強化プロジェクト）：アジア大洋州地域及び北米地域の41カ国・地域から青少年を招き、交流プログラムや被災地視察、復興支援活動体験等を実施。また、被災地の青少年をそれぞれの地域へ派遣することを通じて、日本再生に関する外国の理解増進を目的として、日本政府により進められる事業。

特別企画

# 研究最前線——歯学部 須田直人教授に聞く

## 本学歯学部でもiPS細胞を歯科医療に応用するための研究が進んでいた

京都大学の山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞したことで改めて注目されることになったiPS細胞だが、本学歯学部でも4年前からiPS細胞を歯科医療に応用するための研究を続けている教授がいる。須田直人教授がその人だ。須田教授に、研究の意義と展望を伺った。

須田教授の専門は矯正治療。矯正治療は我々の健康と審美に重要な医療分野で、咀嚼機能が上がり、見た目も美しくなるというメリットがある。そういった中でも治療に伴って稀にみられる歯根が短くなる「歯根吸収」という症状などを回避するために、さまざまな細胞への分化が可能なiPS細胞を利用し、歯根形成細胞を分化誘導できないか、というのが須田教授の着眼点である。

iPS細胞が報告される以前から須田教授は、歯根吸収が起きた時に歯根表面の組織を形成するセメント芽細胞を分離して歯根を再生しようと研究を行ってきた。しかしながら、この方法ではタイミング良く本人からセメント芽細胞を単離しなければな

らないという制約があった。iPS細胞を用いれば、本人由来の粘膜や皮膚の細胞よりセメント芽細胞を分化誘導できるので、拒絶反応や倫理上の問題を解決することができる。

須田教授は今後の展望について「患者さん全員にこれまで以上に安心して矯正治療を受けていただきたいと考えています。そのためにiPS細胞は、今後、歯学や歯科医療においても強力な武器となります。歯科医療は、医用工学や分子生物学のみならず、機械工学や材料工学など、多様な領域と深く関わる学際的な側面を持っています。歯科



iPS細胞について語る須田教授

は、iPS細胞をはじめとするさまざまな最新の知見や技術を、効率良く生かすことのできる分野だと考えています」と語った。

### 歯学部交換研修プログラム

## シエナ大学学生が短期研修で歯学部に来学



付属病院を見学する研修生

10月29日、本学の姉妹校であるシエナ大学（イタリア）からインストラクターと学生2人が坂戸キャンパスを訪れた。

一行は午前中、本学の歯学教育や研究システム、国際交流の講義を受講。その後、昨年2月にシエナ大学の海外研修に参加した本学6年生による大学紹介などに耳を傾けた。昼には教職員らによる歓迎パーティが開かれ交流を深めた。

午後は岡田典久講師による臨床講義を受講し、付属病院を見学。シエナ大学の学生はイタリアと日本の診療システムの違いに驚くとともに、廊下に掲出されている研究成果に関するポスターにも高い関心を示すなど、熱心な様子で研修に参加する姿が見られた。

# 就職戦線を乗り切れ！ キャリアサポートプログラム



12月から3年生の就職活動が本格的にスタートし、学生の就職活動の短期決戦に向けて、大学ではさまざまなサポートプログラムを実施。今回はキャリアサポートセンター主催のプログラムを紹介する。

## 仕事研究セミナー

11月26日から12月5日にかけて仕事研究セミナーが開催され、各日程とも多くの学生が参加した。同セミナーは金融、不動産、ホテル、旅行、ブライダルなど各業界から企業の採用担当者を招き、業界の概要や求める人材像などについて語ってもらうも

の。(株)ブライダルプロデュースの遠藤愉花里氏は、ブライダル業界の現状を説明するとともに、求める人材像について「人の喜びを自分の喜びとして感じる事ができ、情熱と成長意欲を持っている人」と語った。同社に内定を決めた野本翔大さん(英米語学科4年)も登壇し、「第一印象はとても大切です。エントリーシートにもありったけの思いを込め、希望する企業の内定を勝ち取ってほしい」と、参加学生を激励した。

## 内定者報告会

12月6日には内定者報告会を開

力強いアドバイスを送る内定学生催。厳しい就職戦線の中、見事一流企業へ内定を勝ち取った4年生によるパネルディスカッションなどが行われた。

内定学生らは会社説明会への参加や業界研究、企業訪問などの体験談について語った後、改めて「志望動機の重要性」について後輩学生に力強くアドバイス。

「企業があなたに内定を出した理由は何だと思うか」という質問に対しては、「自分の考えを自分の言葉で伝えた」「前向きな姿勢」「自分に自信があった」などの回答があった。

## 不動産学部 キャリアデザイン

## 企業・行政のトップが講演

不動産学部の授業科目「不動産キャリアデザイン」は、不動産業界の第一線で活躍している企業人や行政トップを講師に迎えることで、学生の就職意識の向上を図ることを目的として開講されている。

11月8日に浦安市長の松崎秀樹氏、12月6日に不動産業界民間賃貸最大手である(株)エイブル&パートナーズ代表取締役社長の平田竜史氏が講演

を行った。

松崎市長は、浦安市の歴史と今後の発展、防災対策や高齢化社会への対応などについて、行政の立場から具体的な市政を説明し、浦安市のブランド回復に向けた活動を紹介。また、平田社長は、在学中に宅建に合格することの有利性やメリットを強調した上で、統計指標やアンケート結果などの資料を使い、今後の不動産

業界でのビジネスチャンスの可能性を熱く語った。



松崎浦安市長

## 東日本大震災被災地復興支援活動報告会

## 「経験の重さ」を実感

11月3日、浦安キャンパスで東日本大震災被災地復興支援活動報告会



活動報告をする学生

が開催された。昨年8月に行われた岩手県釜石市での本活動に参加した学生や教職員ら約40人が参加し、活動状況報告や質疑応答など、ボランティア活動に対する考えを深く掘り下げる活発な意見交換がなされた。

本学では、2003年の新潟県三条市水害における被災地支援活動以来、中越地震など被災地でのボランティア活動を継続的に実施。昨年の夏

は一昨年に引き続き2回目となる、岩手県釜石市での被災地復興支援活動を行った。震災から1年以上が経過し、メディアで報道される機会が減る中、自分の目で現地を見たいと強い意志を持った学生有志11人が参加。現地では、がれきの集積所に雑草が生え始めるなど、復興が進まない現状を知るとともに、現地の方々が前向きに復興を目指す姿を見て、参加した学生たちは「生きること」について深く考えさせられたと口々に語った。また、会場からは、学生たちが自分の言葉で語る姿に「経験の重さを感じた」などの感想が寄せられた。

## V5 地域の防犯強化に貢献

12月4日、JR京葉線の新浦安駅前で、浦安市学生防犯委員会V5\*主催の「自転車盗難ゼロ計画」キャンペーンが行われ、本学からはV5代表の田中俊裕さん(経済学科4年)をはじめ、13人の学生が参加した。これは、浦安市の犯罪件数の3分の1以上を占める自転車盗難の撲滅を目指し、浦安警察署生活安全課、浦安市役所防犯課と連携して行われている。

キャンペーンでは、防犯ちらし、ポケットティッシュなどの啓発物資やワイヤー錠を配布し、盗難防止を呼びかけた。この様子は千葉テレビ『ウイークリー千葉県』でも放送され、学生による防犯活動の取り組みに高い注目が集まった。V5代表としてイ

ンタビューを受けた田中さんは、「浦安市をより良い街にするために、他のボランティア団体や地域の方々と連携を図りながら積極的に活動していきたい」と力強く語った。



市民に防犯を呼びかけるV5メンバー

\*V5とは、浦安市内の4高等学校(県立浦安高校、県立浦安南高校、私立東海大学付属浦安高校、私立東京学館浦安高校)と3大学(了徳寺大学、順天堂大学医療看護学部、明海大学)の学生によって構成される防犯委員会。

テーマ  
**「噛んで」「唄って」  
 「笑って」「若返り」**

2月23日(土) 14:00 ~ 15:30  
 (13:30 から受付開始)

講演者 **河原 英雄氏**  
大分県佐伯市 歯科河原英雄医院

明海大学  
歯学部  
公開講座

詳しくは「明海大学」で検索

入場無料  
申込不要

講演会場 **坂戸市文化会館 大ホール**  
東武東上線「坂戸駅北口」から徒歩約15分  
 「北坂戸駅東口」から徒歩約10分  
 ※公共交通機関をご利用のうえお越しください。

受付  
お問合せ **当日、先着順にて受付いたします。**  
TEL.049-279-2707 明海大学歯学部庶務課

# 明海スポーツ

## 体育会3団体 活動報告

体育会公式ホームページ <http://meikai-sports.jp>

### 体育会サッカー部

#### 部から初のJリーガー誕生

12月25日、体育会サッカー部の鶴田周作選手(経済学科4年)が、来シーズンよりプロサッカークラブ「松本山雅FC」へ新加入することが内定した。八津川義廣監督をはじめJリーグで活躍していた選手が同部に所属することはあったが、同部からJリーガーを輩出するのは初となる。

#### プロフィール

氏名:鶴田 周作(ときた しゅうさく)  
所属:経済学科4年  
ポジション:DF  
身長/体重:187cm/78kg  
出身:千葉敬愛高校

12月21日に本学浦安キャンパスを訪れた松本山雅FCの加藤善之ゼネラルマネージャーからは、鶴田選手獲得にあたって反町康治監督からの強い意向があったことに触れ、さらに「センターバックのタレントは少ないことから鶴田選手に期待している。クラブとともに大きく成長してほしい」と話があった。これに対し鶴田選手は「プロとして恥のないよう心がけ、しっかりとチームに貢献できるよう努力します」と力強く答えた。



握手を交わす加藤ゼネラルマネージャーと鶴田選手(右)

松本山雅FC公式HP <http://www.yamaga-fc.com/>

### 体育会ヨット部

#### 全日本で対等に渡り合う

11月1日から4日まで、第77回全日本学生ヨット選手権大会(以下、全日本)が滋賀県の柳ヶ崎ヨットハーバーで開催され、本学体育会ヨット部は念願だった470・スナイプ級両種目出場を果たした。大会は風向、風速ともに良好なコンディションで幕を開け、本学は両種目とも絶好のスタートを切り、前半を総合3位で折り返した。しかし、後半に入るとミス

が連鎖し最終的な順位は470級15位、スナイプ級9位、総合11位だった。

また、11月20日から26日には2013年国際470級ジュニア世界選手権大会の日本代表選考が行われ、蛭原梢(経済学科3年)・澤田しおり(英米語学科1年)ペアが見事1位を獲得。この結果により、両選手は日本代表として来年7月27日からフランスで開催されるジュニア世界選手権大会の出場が決まった。

國府田由隆監督は「今まで目標にしてきた両種目での全日本出場を果

たせたことは部にとって大きな成長となった。今後、全日本での総合優勝を目指していく中で、選手たちは上を追うとともに追われる立場であることも忘れてはならない。常に勝つことを意識してチーム強化に励みたい」と語った。



躍進を続ける体育会ヨット部

### 体育会空手道部

#### 全日本で強豪と相対する

第56回全日本大学空手道選手権大会(以下、全日本)が11月18日に日本武道館で開催された。

本学体育会空手道部は男子が6年連続となる団体組手の部出場を果たし、女子も同じく団体組手の部に出場した。

1回戦は男女ともに危なげない試合運びで快勝。しかし、続く2回戦で男子が明治大学、女子が京都産業大学と当たり、東西の強豪大学相手に一歩及ばずともに敗れた。

上妻優介監督は「全日本までに秋季合宿や朝夕の二部練習と厳しい練習を課して、部員一同“泣きはなし”で頑張ってきたが、目指していた目標には届かなかった。この悔しさを忘れずに、すでに活動を始めている新体制を強化していきたい」と、2013年度にかける熱意をみせた。

## 浦安キャンパス第25回明海祭

11月2日から4日の3日間にわたり、『Pleasure』をテーマに第25回明海祭が開催された。25周年を迎えられた喜び、参加・協力して下さるすべての方々と明海祭を創り上げる喜びを形にした3日間となった。

明海祭では、人気音楽アーティスト「ゴールデンボンバー」のライブ、元オリンピックランナーでタレントの松野明美さんの講演会、人気お笑い芸人のライブなどさまざまなイベントが開催された。特に人気を集めたのは、25周年特別企画として3年ぶりに復活した「お化け屋敷」と来場者参加型の「抽選会」で、地域の子どもたちから高齢者まで幅広い年代の方が楽しむ姿が見受けられた。また、

メインステージでは吹奏楽部やダンスサークルによるパフォーマンスが披露され、会場を大いに沸かせた。

学園祭実行委員長の山本航暉さん（不動産学科2年）は、「今年は25周年という節目の年で、例年より多くの企画を行いました。スタッフの人



工夫を凝らした吹奏楽部による演奏数が少なく、準備は大変でしたが、地域住民をはじめ多くの方々にご参加いただき、たくさんの笑顔を見ることができました。今年のテーマ『Pleasure』を形にして皆様にお届けできたと思います」と語った。

## 歯学体壮行会

12月14日、歯学部体育館で、歯学部学生会主催の第45回全日本歯科学学生総合体育大会（歯学体）冬期部門壮行会が行われ、教職員および大会に参加する選手や学生ら約200人が参加した。

また、壮行会に先立ち、第44回全日本歯科学学生総合体育大会夏期部門で第1位から第6位に入賞した団体の表彰が行われ、優勝したゴルフ

部、3位のサッカー部、他6クラブに中畠裕歯学部長から表彰状が授与された。

歯学体は全国29大学の歯科学学生間におけるスポーツ奨励・発展と相互交流・親睦を図り、スポーツを通じて人間形成に寄与することを目的としており、第45回大会は日本大学歯学部が事務主管となって開催される。

草間薫教務学生部長は「第44回大会は皆さんが頑張った結果、29校中

総合9位という成績を取ることができた。学生生活において、クラブ活動は非常に貴重なもの。今大会も歯科学学生として模範になるよう心がけ、前回以上の結果が出せるよう頑張してほしい」と激励した。

また、鹿野竜一学生会執行委員長（歯学科5年）からも「参加する学生が悔いの残らない試合をし、練習の成果を発揮するとともに怪我のないように試合に臨んでほしい」とエールが送られた。

### 浦安キャンパス 外国語(日本語・英米語・中国語学科)/経済/不動産/ホスピタリティ・ツーリズム学部

#### 一般入試 (A方式)

出願期間 1/8(火)～1/23(水)

試験日 2/1(金)・2(土)・3(日)

※試験日自由選択制 ※2/1、2のみ地方会場でも実施

※このほか、一般入試B方式、大学入試センター試験利用入試B・C方式なども実施します。また、入試の成績優秀者に対する奨学金制度(初年度授業料全額又は半額免除)があります。

#### 大学入試センター試験利用入試 (A方式)

出願期間 1/8(火)～1/28(月)

※本学での個別学力審査はありません。

### 坂戸キャンパス 歯学部

#### 一般入試 (A日程)

出願期間 1/8(火)～1/22(火)

試験日 1/31(木)

※このほか、一般入試B日程、大学入試センター試験利用入試B日程なども実施します。

#### 大学入試センター試験利用入試 (A日程)

出願期間 1/8(火)～1/22(火)

面接日 1/31(木) ※地方会場でも実施